



Botschaft
der Bundesrepublik Deutschland
Tokyo



報道・意見表明の自由、ポピュリズム 民主主義社会の強靱性

パネルディスカッション

2020年12月2日（水）

18時30分（開場18時）～20時15分

社会のデジタル化は、民主主義的政治参加の新たな空間を生み出しましたが、そこにはポピュリズム勢力や民主主義的秩序の敵対勢力による世論操作の危険も潜んでいます。SNSを使い、プロパガンダやヘイト、また「オルタナティブ・ファクト」という名のフェイク・ニュースを急速に拡散できるようになったのです。

日本やドイツなど民主主義社会は、こうした危険への強靱性をどの程度備えているのでしょうか。民主主義への脅威はどうすれば、報道・意見表明の自由を過度に制限することなく回避できるのでしょうか。大手メディアや報道関係者はどのような役割を果たせるのでしょうか。自由で独立した報道は、民主主義の強靱性を促進しうるのでしょうか。

本パネルディスカッションでは、このような問いについて日独のメディア研究者、報道関係者等が議論します。

主催 在日ドイツ連邦共和国大使館
フリードリヒ・エーベルト財団
OAGドイツ東洋文化研究協会

会場

東京ドイツ文化センター ホール

（東京都港区赤坂7-5-56）

オンライン同時配信予定（関係機関のホームページ上でご確認ください）

言語

英語・日本語（同時通訳）

感染予防対策の一環として、入場人数はホール収容人員の50パーセントに制限しております。会場でのご参加をご希望の方は、予めメールでお知らせください（office@fes-japan.org）。また入場にあたりましては、マスク着用と入り口での検温へのご協力をお願いいたします。

プログラム

- 18時 開場
- 18時30分 **ごあいさつ**
イナ・レーペル駐日ドイツ連邦共和国大使
- 18時40分 **パネル・ディスカッション**
- 林香里（はやし かおり）
東京大学大学院情報学環教授（ジャーナリズム研究、マスメディア研究）
- 中野 晃一（なかの こういち）
上智大学国際教養学部教授・同学部長（政治学）
- 澤康臣（さわ やすおみ）
共同通信記者・専修大学教授
- カトリン・エルトマン（Kathrin ERDMANN）
ARDドイツ公共ラジオ放送東京特派員
- ウルリケ・クリンガー（Ulrike KLINGER）
ヴィアドリナ欧州大学 European New School of Digital Studies 教授
（政治理論、デジタル・デモクラシー研究）
- 司会 ヨッヘン・ノイマイヤー（Jochen NEUMEYER）
ドイツ大使館政務担当官
- 20時10分 **閉会のことば**
スヴェン・サーラ（Sven SAALER）
上智大学国際教養学部教授（近現代日本政治研究）
フリードリヒ・エーベルト財団東京事務所日本代表
- 20時15分 **閉会**